

富士山世界遺産登録1周年記念式典

富士山が世界文化遺産に登録されて1周年となった22日、静岡県沼津市のプラサヴェルデでは、静岡・山梨両県知事ら約600人が出席し、世界遺産登録1周年記念式典と、「富士の国づくり推進会議」の発足式が開かれた。

式典には、川勝平太・静岡県知事、横内正明・山梨県知事や両県選出の国会議員、市町村長や富士山に関する活動をする団体関係者が出席し、世界遺産認定書のレプリカの披露や、富士山の文化的価値を全国に広める「『富士の国』づくり推進会議」の発足式が行われた。

川勝平太・静岡県知事は「世界の宝となった富士の姿に恥じない人を作り、地域を作り、国を作って行かなければならない。富士山を大切にすることで国土を美しくしていく」と語り、物の豊かさや心の豊かさを調和させた「富士の国」作りに意欲を示した。

横内正明・山梨県知事は、国際記念物遺跡会議（イコモス）から2016年2月までに保全状況報告書の提出が『求められていることに触れ「観光事業者に新しい規制を加えるのは心苦しいが、富士山の保全が世界遺産としての価値を高め、周辺地域のより質の高い国際観光地化につながる」と述べた。

また、富士山の価値を後世に継承する運動を広げるため、中曽根康弘元首相を最高名誉顧問とする「富士の国づくり推進会議」の発足式では、静岡・山梨両県の知事、県議会議員、経済界代表のほか、認定NPO法人富士山世界遺産国民会議理事長の遠山敦子元文科相ら9人が共同代表に就任。

「自然に対し畏敬の念を持つ」「自然環境、生活環境、そして心の清らかな『美』を保つ」など8か条の行動規範が披露された。

式典では、「富士の国づくり推進会議」最高顧問に就任した哲学者の梅原猛氏（国際日本文化研究センター顧問）が「日本文化の使命と富士」と題して基調講演を行った。

講演では、「巨大な森と海が日本の原型」と述べ、三保松原を構成資産に含んだことを「英断」と評価。近代化の中でも森を守ってきた日本文化をたたえ、人類が一致協力して環境を守ることの重要性を指摘した。

■富士山世界遺産登録1周年記念式典

日時：平成26年6月22日（日） 13：30～16：00

会場：ふじのくに千本松フォーラム「Plaza Verde」1階 コンベンションホールA

住所：静岡県沼津市大手町1-1-4

主催：静岡県・山梨県